

## 第2回 基礎学力向上部会

8月20日(火)、「第2回 基礎学力向上部会」を行いました。富山県総合教育センター 学力向上推進チーム 主任研究主事 松本 真理先生を講師にお迎えしました。市内小・中学校の教務主任・研究主任の先生方が参加しました。全国学力・学習状況調査の結果から本市の児童生徒の傾向を知り、つまずきを解消していくための方策を考えました。

### ①全国学力・学習状況調査が伝えるもの



松本先生

全国学力・学習状況調査は、**学習指導要領が求める資質・能力を、教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すもの**となっています(全国学力・学習状況調査 解説資料より)。**調査問題自体が、授業場面・学習活動の例示**となっています。

### ②結果(解答類型)からの分析



松本先生

結果は、正答率が高いか低いという見方ではなく(だけでなく)、**解答類型から子供がどのように解答しているかを知りつまずきを分析することが大切**です。解答類型には「上記以外の解答」欄もあります。**子供がどのような考え方をしているかを想像することも大切**です。

つまずきに対する手立てを検討していきます。国立教育政策研究所ホームページに「**授業アイデア例**」があります。『手立ての例』等が載っており参考になります。



指導講話 県・市の傾向を知る。



ペア 児童生徒の成果課題を整理したり、つまずきに対する方策を考えたりする。

### 小学校算数 問題番号3(3)を例に

(3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。

直径 22cm



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙



このボールがぴったり入る立方体の体積を求める式は？

正答  $22 \times 22 \times 22$

球の形をした紙の箱の体積が何  $\text{cm}^3$  かを求める式を書きましょう。

$11 \times 11 \times 11$  と解答しているもの  
 $44 \times 44 \times 44$  と解答しているもの  
▼立方体の一辺の長さを誤って捉えている可能性がある。

$22 \times 22$   $22 \times 3$  と解答しているもの  
▼体積の求め方を理解していない可能性がある。

3.14 を用いて解答しているもの  
▼面積と体積が混同している可能性がある。

上記以外の解答  
※全国では、4人に1人が上記以外の解答をしている。

#### 学習指導

図形を構成する要素を見だし、それらを活用して体積を求めることができるようにする。

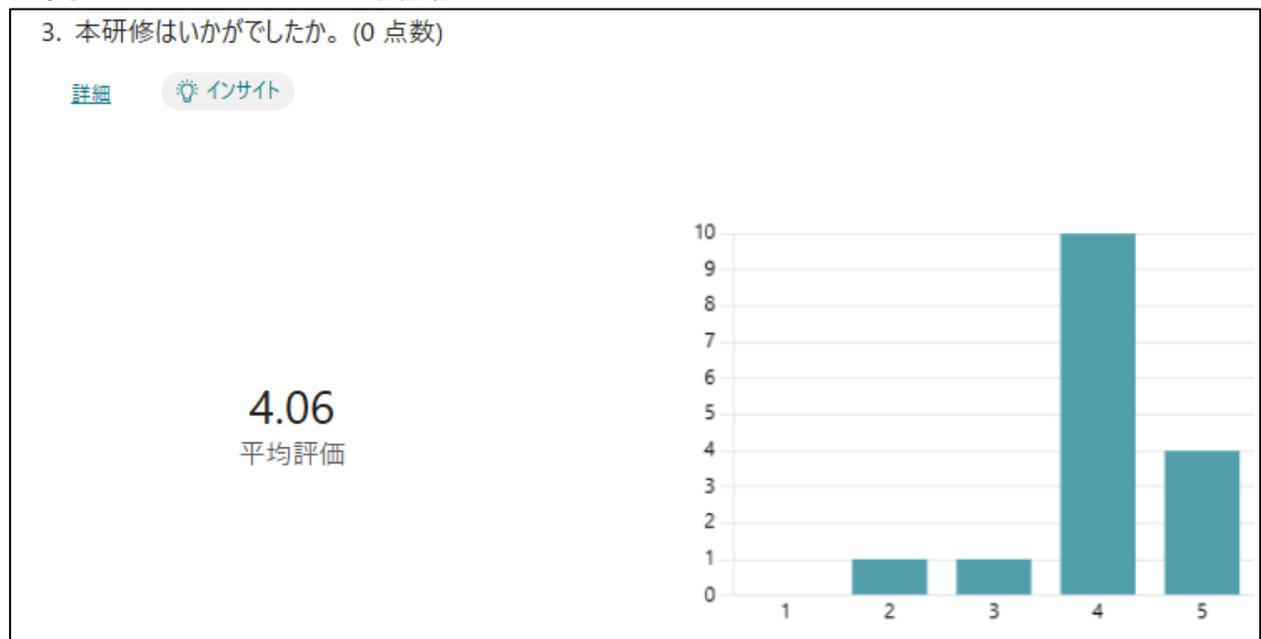
#### 活動

問題のように球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べる活動が考えられる。その際、立方体を真上や真横から観察するなどして、円の直径の長さは球の直径の長さと同じく、立方体の一辺の長さと同じであることを理解できるようにすることが大切である。  
※国立教育政策研究所「授業アイデア集」より一部抜粋

箱は面が6つ  $22 \times 6$ ?



○事後アンケートより（16名回答）



感想	評価
開催時期は夏休みが有難いです。分析表の見方についていろいろと教えていただき有難かったです。できれば、手立てについていろいろな例も聞かせていただくとさらに有難いです。	4
学力調査の分析は校内でも行っていますが、より細かな分析をお聞きできるので、毎年2学期以降の授業改善に生かすことができていると思います。校内で分析する際にも解答類型を確認しながら分析を行っていきたいと思います。また、今年の学力調査のように低学年で学習した問題も出題されていたり、例年に比べると比較的簡単な複雑な問題が少なかったりしたように感じます。だからこそ、低学年から基礎基本を大切に、問題文を読み解く力の重要性を感じました。基礎学力向上部会での話し合いを生かしながら、校内でも読み解く力の育成に力を入れていかなければいけないと考えています。昨日はありがとうございました。	4
講師の先生に質問できる時間があれば、なおよかったです。	5
自校の結果と合わせて講演を聞くことで、市の傾向や自校の課題を合わせて考えることができよかったです。	4
興味深い内容が沢山ありました。個人的には想像力の低下が関係しているかと思いません。普段から図式化する、友達の比べる等、意識して行くことが大切だと思います。質問の内容を子供たちが理解できないことも大きいなと思いました。	4
全国学力調査の結果の分析の仕方について学ぶことができた。各問題の結果を複合的に捉えて実態を把握する視点や中学校の結果とも照らし合わせて分析すること等、大変参考になった。学んだことを生かして本校の結果を分析したい。	5
全国学調の結果を分析することで、今後の方針の参考にすることができた。日頃の授業に生かしていきたい。	4
結果を基に分析され、問題点について分かりやすい説明を聞けました。ありがとうございました。それを受けて2つ記します。1つ目は、6年生で受けた児童の結果と、その学年が3年後に中学3年で受けた結果と比べるとという分析もあるとより効果的だということです。単に点数の比較だけでなく、選択式記述式の回答が3年間でどのように変化したのか、そういう分析があるとより分かりやすくなると感じました。2つ目は、分析された問題点を克服し、子供たちに力を付けるための授業はどうあればよいか、という視点で具体例を示してほしかったことです。(アイディア例については少し触れられましたが・・・) 教務主任と研究主任が学校毎に課題解決の話をするのは、学校に戻ってすればよいです。その代わりに、参加者全体で授業でどうするのか、どんな授業をしていけばよいかという具体例を出し合い、様々な例を共有する時間にしたか	3

<p>ったです。その点を出し合うことが、みんなで集まる研修会では大事なのだと感じました。</p>	
<p>開催時期はよかったと思います。松本先生にもたいへん分かりやすく教えていただきました。</p>	4
<p>作業も中学校区ごとの話し合いも中途半端だったので、作業をなくして話し合いの時間を増やしたらよかったと思いました。話し合いの内容を受けて作業、と思われて設定されたのだと思うのですが、話し合いが盛り上がりつつあるときに「時間です」と言われました。もっと他の先生方の考えを聞きたかったので、そこが残念でした。</p>	4
<p>全国学力学習状況調査の考察のための観点がよくわかりました。ありがとうございます。</p>	4
<p>自分の学校の成果や課題について、講話を聞いた後すぐに話し合っただけで考えられたのは良かったです。</p>	4
<p>中学校との相違点やつながりなども考える事ができた。また、他校の話も聞き、自校の取り組みについても考えることに生かすことができた。</p>	4
<p>滑川市の解答及び回答の傾向について詳しく知ることができたのでよかった。結果の分析については、正答率や無答率等の数値を分析するだけでなく、実際に問題を見てどの部分につまずきが大きいのか考えるなど、時間のかかる作業である。そのため、センターで各校の結果の分析をする時間は必要ないと思う。</p>	5
<p>問題の難易度がまちまちだったり、全く何も書けない生徒が多くなるのが容易に想定できる種類の問題があったりするのに、その正答率について考察することの意義を感じられないことがあった(あくまで、国や県の平均との比較で考えるほうが効率的)。また、統計学的に、国や県の平均から何パーセントまでの差異を誤差と考えるべきなのかということも考えないと、正確な考察にならないので、その点を知りたい(滑川市のデータでは、分母が小さい上に、授業者の教え方や直前に類題を解く機会があったなどが影響として大きかったと考えられるため、5ポイントまでは顕著な差異とは考えにくいと聞いたことがあります)。</p>	2
<p>学力調査の結果を活用するために、分析と考察の視点についてご教示いただき、大変参考になりました。全国や県、市内の数値と比較し、成果と課題を本校の教員と共有したいと思います。生徒の「読み解く力」の向上を目指し、授業改善に生かします。</p>	5